

ISHIKAWA DESIGN AWARD

令和5年度 石川デザイン賞

2023

令和5年度

石川デザイン賞 表彰実施要領

■目的

石川県内のデザイン振興に大きく貢献した個人、団体、企業を評価、表彰することにより、県民へデザインの重要性を広くアピールするとともに、企業、団体へのデザイン導入の促進を図ることを目的とする。

■表彰対象

これまで石川県のデザインの向上、普及に著しく貢献している個人及び企業、団体を対象とする。

■表彰対象者の選考

①デザイン関係団体等の代表で構成する「石川デザイン賞選考委員会」において選考し、決定する。

②選考にあたっては、

- ・デザイン界において顕著な活動を実践したもの
- ・社会、教育に対してデザインのより一層の振興を図ったもの
- ・デザインに対して深い理解を示し、商品開発や販売促進、さらには地域・社会・環境等の課題解決にデザインを効果的に活用したものなどの観点から審査する。

■表彰

石川デザイン賞 3件以内 ※賞状と副賞を授与する。

表彰は、石川県知事と公益財団法人石川県デザインセンター理事長の連名による。

■石川デザイン賞選考委員名簿

委員長	川本敦久	金沢卯辰山工芸工房館長
副委員長	村中 稔	金沢美術工芸大学名誉教授
委員	飴谷義博	(一社)石川県繊維協会専務理事
〃	飯尾 豊	石川県インテリアデザイン協会理事長
〃	佐藤晋太郎	石川県商工労働部産業政策課長
〃	東田修一	石川県ビジュアルデザイン協会理事長
〃	長岡満寿夫	(一社)石川県建築士事務所協会理事
〃	西田哲次	金沢商工会議所常務理事
〃	布島宏胤	金沢市経済局クラフト政策推進課長
〃	松本いづみ	石川県クラフトデザイン協会理事長
〃	水野一郎	建築家・金沢工業大学教育支援機構顧問
〃	山本洋志	石川県プロダクトデザイン協会会長
〃	餘久保優子	石川県工業試験場デザイン開発室長

公益財団法人 石川県デザインセンター

石川県金沢市鞍月2丁目20番地（〒920-8203）

石川県地場産業振興センター新館4階

TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242

ホームページ <https://design-ishikawa.jp>

デザインの力。
人を動かし、
時代を創る。

ISHIKAWA DESIGN AWARD

◎ 受賞者の紹介



受賞理由

雑誌「現代日本の家具」などで度々取り上げられ、家具デザイナーとして高い評価を受ける。大手家具、建具メーカーにも採用され、商品化に至るほか、住宅や店舗のインテリア設計、造作家具の製作も手がけるなど、機能美を追求した質の高いデザインにより幅広い分野で活躍する。

甲斐晋氏は大学卒業後、長野県上松町にある上松技術専門学校で1年間、家具製作の技術を学びました。カンナなど手工具を扱う基本実技からスタートし、フラッシュ構造の置き家具の機械操作実習や小型家具の製作なども経験しました。同期には武蔵野美大、多摩美大の卒業生も多く、感性を磨く上でよい刺激になったと言います。

修了後は静岡、大阪の木工家具メーカーに勤め、製作の現場で腕を磨きました。「どうすればつくるスピードが上がるか、手を動かして体に覚えさせる日々でした」と振り返ります。延べ3か年の修業で木取りから加工、組み立て、塗装までを身につけ、将来、店舗やインテリア設計にも携わりたいと大阪芸大建築学科(通信課程)で学び、二級建築士の資格を取得しました。

2004年、26歳でふるさとにUターンし、あるレストランに取めた家具をきっかけに、紹介で仕事が入るようになり、工務店との取引も始まりました。一方、デザインコンペにも積極的に応募し、2009年、金沢商品デザインコンペで大賞に輝きました。実力が認められて2012年、IFFT国際家具見本市「talentsデザイナー10名」に選出、全国から注目を集めるとともに、受賞歴を重ねました。

これを機に県外のインテリア家具や業務用家具メーカーからの引き合いが増え、商品化に結びつきました。県内でも、和モダンな飲食店にマッチしたオーダー家具や森林組合との間伐材を利用したトレーヤパーベキュー用品の開発など、多彩なデザイン活動を行っています。「デザインの美しさを装飾でなく、機能を生み出す構造線 で表現したい」をモットーに、さらなる挑戦に意欲を燃やしています。



IFFT talents デザイナー 10 名に選出された時に提案した椅子「swallowtail」。構造的に必要な線を装飾的に用い、彫刻のようなデザインとした。2脚を背中合わせに置くと、アゲハ蝶の輪郭のように見える



金沢市内にあるタイ料理レストランのソファ。100年以上前の伝統建築の空間に合わせ、海月(くらげ)の傘や触覚をモチーフにしたデザインで、いしかわインテリアデザイン賞大賞(2019年)受賞

PROFILE

1977年金沢市生まれ、大学卒業後、長野県上松技術専門学校修了。勝見木工(静岡)、刈登製作所(大阪)を経て、2004年にFREY Designを設立。オーダー家具から店舗、インテリア、プロダクトまで幅広いデザイン領域をこなす。2023年「SOON JAPAN DESIGN PROJECT」ARTISAN10名に選出。



株式会社 クロダレース

代表取締役 吉田 茂男

受賞理由

下着用レースの企画、デザイン、製造、販売を一貫して手がけ、市場の激しい変化に対応する商品づくりを行っている。特に、国産シェア80%を占める女性用下着のカッティングフリーレース生地は、最近では男性用下着にも採用されるなど、新しいマーケットを掘り起こしている。

1968年の創業当時、クロダレースの主力商品は人形の衣装に使う細巾レースでした。その後、インナー市場向けレースへと転換し、開発力強化の方針から1990年、CADシステムを導入し、デザイナーの採用を始めました。「企画デザインはレースの命」と吉田茂男氏が言うように、2005年にはデザイン・開発部門を独立させて「KURODA TEX」(現YOSHITA TEX)を設立、現在、開発要員のスタッフ11名が所属しています。

同社の強みは、下着メーカーと直接取引をし、先方の求める企画デザインイメージを具体化したレースを製造するだけでなく、トレンドやニーズを独自に分析して新製品を企画、提案できる能力の高さです。加えて、レースを知り尽くす吉田氏の指揮のもと、素材開発や独自の編み技術にも積極的に取り組んできました。

2016年に特許取得した「カッティングフリーレース」は、石川県工業試験場のサポートを受けて開発、編み込んだ化学繊維糸を加熱、糸同士を接着させることで、生地のどこを裁断しても端部がほつれない画期的な製品となりました。ほつれ防止のために必要な折り返し縫製の工程が省け、下着のラインを気にせず着用できる優れた機能性もあり、下着メーカー、消費者双方の厚い支持を集めます。

保有する特許件数は20を超え、高い企画デザイン力と技術力は下着レースの世界でオンリーワンの存在と言えます。さらに、カッティングフリーレースを薄くした新製品(特許出願中)が好調で、新たに男性用下着にも採用されヒット商品となっています。2020年度、石川県ニッチトップ企業海外展開支援事業にも採択、アジア、欧米を中心に売り上げに占める海外比率は約15%となっています。



カッティングフリーレースの新製品を採用した男性用ボクサーパンツ



ファッションワールド東京に出展した同社の多彩な商品サンプル

PROFILE

- 代表者 吉田 茂男
- 所在地 小松市国府台5-30
- 創業 1968年10月
- 従業員 80名
- 主な業務 ファッションレースの企画・製造・加工・販売



株式会社 谷口

代表取締役社長 谷口正晴

受賞理由

伝統的な木製品にとどまらず、布のように柔らかな新素材「縫える木」を開発した。これを革素材と合わせてバッグや小物の商品化を行い、国内外に販路を広げるほか、現在、壁紙やロールカーテンなどインテリア分野にも展開、新たな木製品の魅力と可能性を追求し続けている。

基に使う基筒の製造で全国シェア60%を占める谷口は、変化するライフスタイルに合わせてさまざまな木製調度品を手がけてきました。10年の研究期間を経て2009年に完成した「縫える木」は、木材を0.12~0.15ミリ厚にスライスした後、柔軟性を持たせる特殊加工を施し、不織布を貼り合わせて商品化したものです。

同年、この新素材と革素材とのコラボレーションによるバッグを製作、「BOIS(ボイス)」ブランド(現wBOIS ワールドボイス)で販売を始め、実用新案登録も取得しました。堅い木のイメージを一新した新素材はマスコミでも取り上げられ、2017年、ハナエモリの東京コレクションでは、「縫える木」と布とを縫製して制作したドレスやバッグ、アクセサリーの素材として使われ、大きな話題となりました。その後もデザイナーとともに新ブランドの立ち上げや、環境に優しい木製商品「森シリーズ」の発売など、意欲的な商品を次々と送り出しています。

谷口正晴氏は「木製品の伝統を守っていくには、自分たちがもっと変わる必要がある」と話し、2021年からはインテリア分野にも挑戦しています。具体的には、温度や湿度などの環境変化による「縫える木」の伸縮を抑えるため、和紙を貼り合わせて作った建築内装シート(壁紙)を開発、翌年、「BOIS ART(ボイスアート)」ブランドで発売しました。この壁紙は、国土交通省から「不燃材料」「準不燃材料」「防災認定取得壁紙」の認定を受けています。

「BOIS ART」ブランドからは、既に同シートを使った天然木シェードやロールカーテンが誕生しており、2023年度、「BOIS ART」がプレミアム石川ブランド製品にも認定されました。現在、木の建築内装シートは特許出願中で、さらなる用途拡大が期待されます。



「BOIS ART」を施工した室内。能登産ヒノキ材と黒柿材を使用し、木目調のプリント壁紙では絶対に味わえない質感と本物の木の香が漂う



薄くスライスした木と本革を組み合わせた世界初のバッグ。木なのに柔らかく、丈夫でしなやかな作りが特徴

DATA

- 代表者 谷口 正晴
- 所在地 金沢市駅西新町2-19-17
- 創業 1947年4月
- 従業員 12名
- 主な業務 木製工芸品、wBOIS 商品、BOIS ART 商品、基筒など

◎ ご挨拶

デザインは、時代を切り開く新しい価値創造のプロセスとして、商品開発や広告はもとより、企業戦略や都市景観、イベント、地域活性化など多様な分野で、その力を発揮しています。

ますます創造性が必要とされる今日において、より一層社会に対して、デザインの浸透を図っていくことが重要であると考えます。

石川デザイン賞は、こうしたデザインの役割を広く県民各層にご理解いただくために、デザインの普及・発展やデザイン業界の活性化に著しく貢献した個人及び企業、団体を顕彰するものです。

選考に際しては、デザインに対する理解の深さ、リーダーシップ、社会への貢献度、商品開発や販売促進においてデザインを効果的に活用したものの、そしてデザイン業界において顕著な活動をしたものを対象としています。

令和5年度は、右記の3者が受賞しました。ご一読いただき、デザインの有効活用の一助になれば幸いです。

公益財団法人 石川県デザインセンター

理事長 **大場吉美**